

## 透析医のひとりごと

### 「小さなクリニックのささやかな国際交流」——— 佐藤 隆

昨年（平成20年）2月に入った頃、関連医局の先生から「オーストラリアの透析患者さんが観光で金沢に来られるのだが、先生の所で一部面倒を見てもらえないか」との打診があった。このような小さなクリニックとしてはこれは大変なビッグイベントなので「他の施設も加わっているの？」と聞いたところ、大変英会話が堪能な先生の施設にもお願いしてあるとのこと、ますます私としては凹んでしまった。

基本的には引き受けるとの前提でスタッフと協議をした。大勢はあまり気乗りはしないが先生が引き受けらるならば協力しましょう、とのことで決着が着いた。国際交流という事であるならば、当クリニックの患者会のメンバーにも参加してもらおうと働きかけたところ、お一人、現在英会話の勉強をしている方が積極的に参加を表明をされ、「オーストラリアの透析患者さんと交流をする」プロジェクトにご参加頂くこととなった。

早速、4月末の来沢に向けて即席の英会話道場をしようと、大学病院の先生のご紹介で、アメリカ人英会話講師（プロフェッショナル）が週1回クリニックに来院し、メンバー全員トレーニングを受ける運びとなった。

私が病院勤めから自分で開業するようになって一番痛感したことは、他人を評価することの難しさである。ともすれば自分に都合の良い物差しで判断し「よくできて優秀だ」とか、その反対の評価をする危うさがあったが、日ごろと異なったことに遭遇すると思ひもかけない結果となることがままた見られた。

会話道場で講師から最も高い評価を得たのは件の患者さんであった。「キヨシ、ユーアーグッドスチューデント」と常にお褒めの言葉を頂いていた。職員達でも英会話の勉強には積極的参加をした人もいて、日常の仕事の点ではイマイチの評価を再評価せざるをえない例もあった。会話道場はロールプレイなども混ぜ結構楽しく過ごせた。

透析実施は患者さん達が2グループに分かれたので、職員もそれぞれの希望に従い2グループに分けた。第1日は、大学の先生で英会話が堪能な先生が数人と、ツアー専属の通訳の方のサポートがあり無事にこなすことができたが、第2日は上記のサポートがまったく無く、正味実力で対応した。後者のメンバーは、後にメンバー配置が不公平であるとのクレーム粉々であった。しかしながら、患者さんレスポンスカードでは、驚くべきことには彼らの反応では、コミュニケーションの評価に差が無かったとあった。「グッドスチューデント」のキヨシ君は、プロの通訳がネを上げた難解発音のオジイサンに密着コミュニケーションで会話が成り立ち、彼らの帰国後もメールでやりとりしたと聞いている（さすが!）。言い訳としては、語学力の乏

しさを安全，正確な技術とホスピタリティーの心が凌駕したと弁明した。

後の反省会では，これら一連のことは非日常的な努力が多々あり，今後は外国人の透析でも日本人の臨時透析の場合と同様にできなければという点が指摘された。オーストラリアの皆さんの，当クリニックに対する評価は高いものを頂いたようだが，それらの外交辞令も含んだ評価に惑わされず，正確に問題点をついた諸姉の慧眼に改めて感服した次第である。加えるに，もう少し嬉しい点は，一緒に参加したコメディカルスタッフの数人がさらに英会話を勉強したいとのことで，かの米人英会話講師の指導で勉強中。あらためて熱いエールを送るものである。

パークビル透析クリニック

